

## 令和 6 年度事例研究「企業版ふるさと納税」

日時：令和 7 年 2 月 4 日（火）14:00～17:00

場所：マッセ O S A K A 大ホール

### 事例発表

演題：東広島市の新たなまちづくりについて～次世代学園都市構想の実現に向けて～

間所 克成 氏（広島県東広島市 政策推進監）

#### 1. 企業版ふるさと納税の活用実績

広島市では、大学と市の連携によるまちづくりに対して企業の皆さまに賛同していただき、企業版ふるさと納税の制度を使わせていただいています。企業版ふるさと納税の令和 3～5 年の実績のうち、大きなものは三つあります。一つ目は「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」で、広島大学と市による新しいまちづくりの取り組みに対して賛同する企業に集まっています。二つ目は「せとうち半導体共創コンソーシアム」で、東広島市にマイクロンメモリジャパンという米国マイクロン・テクノロジー社の子会社の製造会社があるのですが、そこの研究開発と広島大学の教育機能を一緒にして人材育成をしています。三つ目は「広島大学デジタルものづくりイノベーション拠点の整備」です。広島市府中町に自動車メーカーのマツダの本社があるのですが、東広島市は隣接市なので自動車関連の産業が非常に多く、その関係で広島大学とのデジタルものづくりの取り組みに関連企業から寄付していただいています。

#### 2. 東広島市の概要

東広島市は、ちょうど 50 年前、広島大学の統合移転をきっかけにできたまちです。広島大学以外に近畿大学工学部や広島国際大学、エリザベト音楽大学がある学園都市であり、市をつくる過程で国や県のさまざまな試験研究機関や製造企業などを誘致しています。また、古くからある酒蔵が西条の景観をつくっています。広島県の中央部に位置し、面積は 635km<sup>2</sup> です。大阪府の 3 分の 1 ぐらいですから、大阪の自治体の方から見るとかなり広い面積だと思います。中山間地から海まであり、海側ではカキ、山側ではミカンやレモンが取れるという、さまざまな特色を有するまちです。

1974 年に広島大学の統合移転を契機に誕生し、その過程で国や県の主導により学園都市建設プロジェクトが進められました。東のつくば、西の東広島という形で、つくばは整然と設計されたまちがつけられた一方で、東広島は自然に溶けこんだ学園都市という思想でつけられたと聞いています。大学の集積や広域交通網の充実が図られ、その後、広島市の隣接市ということもあり順調に成長していきました。近年、日本はどこの地方都市も人口が減っていて、先日のニュースでは都道府県の中で広島県が 4 年連続で最も人口が減少しているという話がありましたが、東広島市は県内では唯一人口が少し増えていて、学生が人口の約 10% を占めています。研究活動をしている企業が多く、研究者として海外から勤めに来ている方々もいます。そうは言っても人口増加が鈍化して成長の踊り場にあり、市政 50 年ですが、50 年後、100 年後をどうしていくかということを考える必要が出てきま

した。

### 3. Town & Gown 構想の展開

そういった中で、市と広島大学で進めている Town & Gown 構想という新たな取り組みについて説明したいと思います。この取り組みは企業版ふるさと納税制度を活用して進めています。Town はまちで、Gown は大学の卒業式のときに着るガウン、つまり大学を表しており、まちと大学で協力してまちづくりを進めています。欧米では立地するまちと大学の仲が非常に悪く、それを何とかするために Town & Gown という取り組みが進められていたようですが、今では「Town & Gown」で検索すると東広島市が一番上に出てきて、国内で Town & Gown といえば東広島市、広島大学という形になっています。

市内の学生人口が減っていく中で、中堅どころの広島大学も将来の大学運営に悩みを抱えていました。国立大学の運営費交付金も減少傾向にあり、それぞれが困っていた中で一緒に何かやりませんかという話になり、令和元年度文部科学省事業の「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決」に応募し、提案したものが採択されました。タイトルは「アカデミック・エンタープライズが駆動するサステナブル・ユニヴァーシティ・タウン構想」です。アカデミック・エンタープライズとは、大学が企業のように事業活動を行い、大学の持つ研究機能や不動産などの資源を使ってまちと一緒に取り組むことで、まちも大学も元気になって発展していくというものです。参考にしたのは広島大学が連携している米国のアリゾナ州立大学です。アリゾナ州立大学の持つ研究機能を地域の活性化や地域の課題解決に生かすということで、そこに資金が集まって公的資金以外の収入基盤が多様化し、どんどん発展しているというモデルがあり、それを参考にしました。

シリコンバレーと呼ばれたカリフォルニアの地価が高騰する一方、アリゾナ州は規制が少し緩くて実証実験がしやすく、自動運転のタクシーも一番に実装された場所です。いろいろな企業の投資が非常に増えており、その中でも主要な都市であるフェニックス市はシリコンデザートと呼ばれています。アリゾナ州立大学はテンピ市に本部があり、周辺都市にも多くの拠点を設けています。さまざまな研究と大学の機能が一緒になって地域の課題解決に取り組んでいたところへ企業の資金が入ってきたという好循環の中で学生数も増加し、今では十四、五万人ということで、アメリカの大学ランキングでもトップ校を抑えて上位に食い込んでいます。Skysong ASU Scottsdale Innovation Center という施設が6棟ぐらい建っていて、ここにたくさんの企業が入居しています。さらに本部キャンパスの隣接地では約143ヘクタールの大きな街区整備をしていて、大学機能以外にホテルやエンターテインメント機能などを擁する建物やまちを大学の資金を使いながら企業と一緒につくっています。

日本は制度が違うので同じことはできないと思いますが、こういったことを何とか日本でもできないかということを広島大学と一緒に考えています。広島大学は大阪大学や京都大学のような世界トップレベルの研究力はないですが、半導体の教育・研究、ゲノム編集、デジタルものづくりの分野ではかなりとがった研究をしています。こういった大学の知見を「持続可能な発展を導く科学」として企業を呼び込んでまちづくりに活用しつつ、東広島市がまちを実証実験の場として貸し出したり、外国人が多いという特性を生かして海外の人にも選ばれるまちづくりをするということで、サステナブル・ユニヴァーシティ・タ

ウンという名称で計画を立てました。

東広島市には90か国ぐらいの外国人が住んでいて、人口の5%（約9,000人）を占めます。企業に勤めている方、大学の留学生の方、在日の定住者など、バランス良くいろいろな方が住んでいるので、そういったインターカルチュラル・シティ（文化的多様性）を都市の活力や革新、創造、成長の源泉としていく都市政策を進めようとしています。海外に目を向けると人口が増えているところばかりです。特に東南アジアやアフリカは発展が著しいですが、そういうところの方々からも選ばれるまちとはどういうまちなのかという議論をずっとして、それがTown & Gown構想につながっています。

アリゾナ州立大学がアカデミック・エンタープライズという運営理論で人口増加と民間投資の誘発を実現しているので、東広島市と広島大学でも、これが大学を核とした地方創生のモデルにならないかと考えてさまざまな取り組みをしています。今までも自治体と大学の共同研究や連携はあったと思いますが、個人の先生や市の担当者1人ということではなく、大学と市が一緒になって、包括的、日常的、継続的、組織的な関係を構築しています。具体的には、東広島市と広島大学で職員の新人研修を合同開催したり、市から広島大学に出向して一緒にさまざまな取り組みをしたりしています。その流れでTown & Gown Officeを設置し、近畿大学工学部や広島国際大学にも展開して、まちと市内の大学が一緒にまちづくりをしています。

#### 4. Town & Gown 構想から次世代学園都市構想へ

「サステナブル・ユニヴァーシティ・タウン構想」を検討し、広島大学と包括連携協定を結んだ後、Town & Gown Office の設立に向けて準備室を設置しました。構想の内容を聞いた企業が非常に興味を持たれて、一緒にやりたいということで、住友商事様、ソフトバンク様、ゼネコンのフジタ様の各社と広島大学と東広島市との三者包括協定に発展しました。さらに、広島大学フェニックス国際センターMIRAI CREA（ミライクリエ）を開設してその中にTown & Gown Office を設置し、今申し上げた3社以外にも集まって、18社ぐらいで「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」を立ち上げました。

また、半導体産業が盛んになってきたので、それを基盤にして広島大学と一緒に周辺の未開発地域を開発していこうという話をしていて、国や県とも一緒に取り組みを進めています。

「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」では、先ほど申し上げたように企業と大学で一緒に進めていくのですが、その社会実装などに企業版ふるさと納税のお金を当てています。

「せとうち半導体共創コンソーシアム」でも、いろいろな企業に出資いただき、半導体の教育や研究の取り組みを進めています。

「広島大学デジタルものづくりイノベーション拠点の整備」では、自動車関連の企業からお金を頂いて取り組みを進めています。

コンソーシアムの透明性を確保するということであれば、基本的には広島大学が規定に沿って発注していて、その中で競争性を保っています。

## 5. Town & Gown 構想の未来図

Town & Gown については、全国 Town & Gown 構想推進協議会を設立し、この取り組みを広げていきたいと考えています。既に愛媛大学と今治市、島根大学と出雲市、広島大学と呉市が会員となって一緒に活動しています。大阪にも大学があるので一緒に取り組みができればと思っています。